

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
むかわ町	穂別地区	令和4年4月1日	令和5年1月18日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	1,967.2ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	1,703.8ha
③地区内における65才以上の農業者の耕作面積の合計	461.9ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	330.9ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	326.0ha

2 対象地区の課題

<p>中心経営体83戸のうち65歳以上は27戸で全体の約32%を占め、耕作面積は461.9(ha)で全体の23.4%となっている。うち後継者未定の耕作面積が331(ha)で65歳以上の耕作面積の71.6%と高い状況である。</p> <p>現時点で、後継者がいるのは24戸で、全体の約28%という厳しい状況であり、今後さらに担い手不足による、農地の適正利用への懸念が加速化することが予想される。</p> <p>このような現状をふまえて適切な農地利用を図るうえでの課題を次のとおり整理する。</p> <p>◇人の課題</p> <p>①後継者不足については全体的に深刻化していく傾向であるものの、地区内集落によっては5年後において後継者が確保されており、現状と同戸数が見込めるなどといった、集落間差がより顕著になる。</p> <p>②農業をとりまく情勢変化による将来的な経営の不安により、規模拡大や経営移譲をためらう農業者が増える。</p> <p>③地区内の後継者(20歳代から30歳代)の活発な話し合いや学習の機会が少なくなっており、集落内の課題や農業情勢の把握等が乏しくなり、将来安心して経営移譲をするための準備がしにくい状況である。</p> <p>④人口減少により、臨時雇用の確保が難しく、家内労働力や機械作業に頼らざるえなくなり経営内容変化への対応が必要である。</p> <p>◇農地の課題</p> <p>①近年、エゾシカやアライグマといった鳥獣による農作物被害による減収量が增大していくなかで、経営規模拡大及び高収益作物への転換を行うにあたり、鳥獣被害を防止する取組が必要となっている。</p> <p>②穂別地区は中山間地域であることから、ほ場環境として区画面積が小さく、傾斜地であることから、効率の良い大型機械作業が難しい。</p> <p>③経営耕地面積の拡大をおこなう場合には、将来的に区画拡大や排水対策を目的とした基盤整備等を行い、ほ場毎の作業時間の短縮及び大型機械による作業の効率化に向けて農地条件を改善する必要がある。</p> <p>④戸数の減少及び経営規模により、集落内の農業者にて農地の引き受けができない場合に備えて、関係機関との情報を共有することで集落間による中心経営体に向けた相談が出来る仕組みづくりが必要である。</p>
--

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>基盤整備によるほ場改善において、1経営体あたりの耕作面積が増加していくことを鑑みて、作業効率やほ場条件などといった課題の解消に向け、地区営農の方向性等を重視した高い生産性を目指した中心経営体への集約化を図る。</p>
<p>鳥獣による農作物被害を軽減し経営の安定化を図ることで、意欲のある中心経営体が安心して規模を拡大することで、農地の集約化に繋げる。</p>
<p>農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想との整合性を図りつつ、地区の状況をふまえた農地の集約化を図る。</p>